

上毛町少年海外体験学習事業 「バンコク友好の翼」



タイ・バンコクにあるチュラロンコーン大学附属小学校の5年生児童32名が、9月28日(日)から10月5日(日)の7泊8日で上毛町を訪れました。

滞在期間中、歓迎セレモニー、両国の交流を記念する記念植樹、町内4つの小学校との学校交流や日本の家庭生活を体験するホームステイ、ホームステイ受入世帯児童との交流会など様々な体験と交流を行いました。

上毛町に到着した9月28日(日)は、上毛町立体育館「ループアリーナ」で歓迎セレモニー、大池公園で平和の象徴「オリーブの木」の記念植樹を実施しました。歓迎セレモニー、記念植樹には8月にバンコクでの渡航研修に参加した団員と、今回の訪日事業でホストファミリーになった児童らが参加しました。記念植樹を終えた後は、大平楽にて交流会を行い、舞踊ショーの鑑賞と夕食会を通じて交流を深めました。

9月29日(月)、9月30日(火)は学校交流を行いました。西吉富小学校では生け花体験、南吉富小学校では輪

投げやだるま落とし、万華鏡づくりなどの昔遊び、友枝小学校では書道体験を通して漢字を学び、唐原小学校では玉入れ体験と法被づくり、高学年クラスでの国語の授業を体験しました。学校交流中、両国の児童は笑顔あふれる大変充実した時間を過ごしました。

その他、大池公園で開催された「こうげ大池灯りの祭典」の見学をし、チュラロンコーン大学附属小学校の先生と児童が描いた色鮮やかなポスターで作成したペットボトル灯籠や町内小学生が作成したペットボトル灯籠、ステージイベントの鑑賞も行いました。

町はこの交流を通じて次世代を担う児童たちが、より広い視点に立った物の見方、考え方ができる国際感覚をもった青少年に育つことを期待しています。



トムヤムクン危機と希望を歌う 「アメージング・タイランド」

CIR(国際交流員) プーンシリ・ナタオン

チュラロンコーン大学附属小学校 来町

9月28日(日)から10月5日(日)までの7泊8日間、タイ王国・チュラロンコーン大学附属小学校の児童32名と引率の先生5名が上毛町を訪れました。初日には上毛町立体育館(ループアリーナ)で歓迎セレモニーが行われ、児童たちによる華やかなダンス披露がありました。

歓迎セレモニーで披露されたのは、タイを代表する歌手であり、国家から「芸術分野の人間国宝」としても認められたチナゴーン・グライラート氏が歌う「アメージング・タイランド(Amazing Thailand)」に合わせたダンスです。この歌にはタイの歴史的背景が色濃く反映されています。

困難な時代を背景に生まれた「アメージング・タイランド」は、希望の象徴としてタイ国民を励まし、同時に世界へ「タイの魅力」を発信する力を持っています。今回の訪問では、その「希望」と「元気」のメッセージが上毛町の皆さんにも届き、心と心をつなぐひとときとなりました。



「第24回上毛町ゲートボール大会」開催！

10月4日(土)、大池公園多目的運動広場ゲートボール場で「第24回上毛町ゲートボール大会」が開催されました。町内17名が参加し熱戦が繰り広げられました。



「アメージング・タイランド」とは？

1990年代のタイは、経済用語で急速な経済成長を遂げた国(韓国・台湾・シンガポール・香港)を指す「アジアの4頭の虎」に続く国と期待されるほど高成長を遂げていました。しかし、1997年からその繁栄は一転し、国全体が深刻な不況に直面しました。「アメージング・タイランド」が生まれた背景には、この1997年に勃発したアジア通貨危機(アジア各国の急激な通貨下落)があります。その中心となったタイでは、急激に経済が落ち込み、その事態はタイの名物スープになぞらえて「トムヤムクン危機」とも呼ばれました。

そのような状況の中、国の経済を立て直すため注目されたのが観光業でした。タイ政府は海外からの観光客を呼び込み、外貨を獲得する大規模なキャンペーンを展開。その象徴として生まれたのが「アメージング・タイランド」です。

軽快で明るいリズムにのせて、タイ各地の美しい自然や文化の豊かさ、人々の温かさを世界へと発信しました。歌詞には、政府の観光振興プロジェクト名も用いられており、国内外にタイの魅力を伝えることを意図しています。